

# 全国学力・学習状況調査について

泉佐野市立第三小学校

## 1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

## 2. 調査実施日

平成28年4月19日（火）

## 3. 調査の対象

小学校第6学年，全児童  
実施児童数（18人）

## 4. 調査の内容

### (1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語及び算数。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、主として知識・技能に関する内容（A問題）と、それらを活用する力などに関する内容（B問題）とする。

ウ 出題形式については、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。

### (2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査（以下「児童アンケート調査」という。）を実施する。

### (3) 学校の取組みに関する調査

調査対象の児童が在籍する学校を対象に、学校における教育条件の整備状況や指導方法等に関するアンケート調査（以下「学校アンケート調査」という。）を実施する。

平成28年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・極端な二極分化の状況で、ピークが分かれる。全体が下位方向にシフトしている。そのため平均正答率はかなり低くなっている。 平均正答率（本校 63.0／泉佐野市 69.5／大阪府 71.3／全国 72.9）

「B区分問題」

- ・下位, 中位, 上位層と顕著に分かれている。上位層もいるが、本校のピークはかなり左（正答数の低い方）へシフトしているため平均正答率は低い。 平均正答率（本校 45.6／泉佐野市 52.4／大阪府 55.4／全国 57.8）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語A	特徴がみられた設問
<p>概ねできているもの、正答率が全国平均より高かったもの</p> <p>【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】</p> <p>○学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む。 ・お年玉を貯金する。（下線部を漢字で書く） 問1の一の2 (94.4/98.5)</p> <p>○平仮名で表記されたものをローマ字で書く。 ・りんご 問8__1 (55.6/53.2)</p> <p>【読むこと】</p> <p>○公園案内図とパンフレットにある表とを関係づけて読み、希望に合うものを選択する。 問5 (88.9/93.1)</p>	<p>課題があると思われるもの、正答率が全国平均より低かったもの</p> <p>【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】</p> <p>○学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く。（下線部を漢字で書く） ・<u>した</u>しい人 問1の二の2 (55.6/73.8) ・<u>そう</u>だんする。 問1の二の3 (27.8/64.2)</p> <p>○文の型として適切なものを選択する。 問2の二 (52.9/71.7)</p> <p>○平仮名で表記されたものをローマ字で書く。 ・あ<u>さ</u>って 問8__2 (38.9/41.8)</p> <p>○ローマ字で表記されたものを正しく読む ・hy<u>aku</u> 問8__3 (38.9/50.7)</p> <p>【書くこと】</p> <p>○ルール説明の表現について助言した内容として適切なものを選択する。 問3 (50.0/67.4)</p>
国語B	特徴がみられた設問
<p>課題となるところもあるが、全国平均より正答率が高かったもの</p> <p>【書くこと】</p> <p>○「早ね早起き」活動の成果について、〈図1〉の結果を基に書いた内容として適切なものを選択する。 問2の一 (44.4/43.4)</p> <p>○「パン職人」について、紹介したい内容をまとめて書く。 問3の三 (61.1/52.9)</p>	<p>課題があると思われるもの、正答率が全国平均より低かったもの</p> <p>【話すこと・聞くこと】</p> <p>○店長へのインタビューメモを作成した際の工夫した点として当てはまらないものを選択する。 問1の一 (38.9/51.8)</p> <p>○店長への質問の意図として適切なものを選択する。 問1の二 (33.3/51.1)</p> <p>○店長へのインタビューメモを基にして、話の展開に沿った質問を書く。 問1の一 (38.9/50.4)</p> <p>【読むこと】</p> <p>○「パン職人」に関する本を選んだ目的の説明として適切なものを選択する。 問3の一 (55.6/77.2)</p> <p>○「パン職人」に関する複数の資料の内容を関係づけてまとめたものとして適切なものを選択する。 問3の二 (44.4/77.9)</p>

### 3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好き	55.5	58.3		2.8
国語の勉強は大切だと思う	88.9	91.3		2.4
国語の授業の内容はよく分かる	72.2	80.7	◇	8.5
読書は好き	33.3	74.6	○	41.3
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	88.9	89.2		0.3
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている	38.9	67.0	○	28.1
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している	72.3	62.3	○	10.0
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている	66.6	74.0	◇	7.4
国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめごとに内容を理解しながら読んでいる	66.6	78.1	○	11.5
今回の国語の問題について、文章で答える問題に最後まで書こうと努力した	61.1	75.1	○	14.0

#### 【学力状況調査より】

- A問題、B問題ともに目につくのが、無答の割合が高いことである。全国の無答の割合と比べてもかなり高くなっていて、正答率を引き下げている大きな要因となっている。各問題の中には誤答の割合よりも無答の割合が高いものがA問題、B問題ともに複数あった。学習意欲の部分での課題と考える。
- 特徴が見られた設問で、「学習指導要領の領域」や「評価の観点」に照らし合わせて傾向を探ってみるが、正答率に関わらず、散らばっているという印象を受ける。これは、全体の傾向と一致するような感覚を受ける。つまり、下位層から上位層までなだらかに分布し、その中で歯が抜けたようなところがあって、その隙間が二極分化、三極分化の見極めにつながっている、と読めるのである。このような分布なので、特定の領域や観点到照らし合わせたときに、傾向がつかみにくくなるのではないかと考えるのである。少人数の学級（18名）である。学力に関しては、全体の傾向と言うよりは個々の課題として捉えることが重要であると考えられる。

#### 【学習状況調査より】

- 国語の学習に関わっての子どもたちの意識を見てみると、「読書が好き」と答える児童が圧倒的に少ない。肯定的な回答率（当てはまる・どちらかと言えばあてはまる）が、全国の半分にも満たない。また、「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」という項目についても、同様に低い。この二つの項目での肯定的な回答の割合は4割に満たないのである。「読む」ということは、国語のみならず、他教科の学習を進めるにあたっての基本でもあるが、ここにネガティブな結果があることが大きな課題と言える。上記以外の学力を支える学習状況調査の項目について関連させながら、掘り下げていくことで今後の対応策を講じていくことが急務である。

平成28年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

・全国の平均正答数辺りにピークはくるとは、分布が全体的に広がっており、結果としては、全国平均正答率に遠く及ばない。 平均正答率（本校 62.5／泉佐野市 75.0／大阪府 76.9／全国 77.6）

「B区分問題」

・平均正答数の分布が二極化していることが分かる。全国平均正答率よりも高いところに一つのピークはあるのだが、正答数が2問というところにもピークを見ることができ、正答率はかなり低い。 平均正答率（本校 39.3／泉佐野市 44.0／大阪府 45.8／全国 47.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数A	特徴がみられた設問
<p>概ねできているもの、正答率が全国平均より高かったもの</p> <p>【数と計算】</p> <p>○計算をする</p> <p>・905-8 問2の(1) (88.9/90.9)</p> <p>・4.65+0.3 問2の(2) (83.3/77.1)</p> <p>○二つの数の大小関係を表す不等号を書く。</p> <p>問3の(1) (88.9/96.7)</p>	<p>課題があると思われるもの、正答率が全国平均より低かったもの</p> <p>【数と計算】</p> <p>○2.1÷0.7を、除数が整数になるように工夫して計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く。</p> <p>問1の(2) (38.9/68.5)</p> <p>○小数の除法の結果を、乗法を用いて確かめるとき、当てはまる数値の組み合わせを書く。</p> <p>問1の(3) (72.2/87.9)</p> <p>○18÷0.9を計算する。</p> <p>問2の(3) (50.0/77.7)</p> <p>【図形】</p> <p>○4枚の三角定規でつくることのできる形を選ぶ。</p> <p>問6 (50.0/79.6)</p> <p>【数量関係】</p> <p>○定員と乗っている人数の割合を、百分率を用いた図に表すとき、当てはまる数値の組み合わせを書く。</p> <p>問9の2 (27.8/50.9)</p>
算数B	特徴がみられた設問
<p>課題はあると思われるが、全国平均より正答率が高かったもの</p> <p>【数と計算】</p> <p>○縦39cm、横54cmの長方形の厚紙から、1辺9cmの正方形を24個切り取ることができるわけを書く。</p> <p>問3の(2) (38.9/38.4)</p> <p>【数量関係】</p> <p>○A小学校とB小学校の図書委員が表したグラフを見比べて読み取った事柄として正しくない事柄について、正しくないわけを書く。</p> <p>問4の(3) (33.3/24.9)</p> <p>【図形・量と測定】</p> <p>○示された四角形を並べてできる図形を選ぶ。</p> <p>問5の(2) (27.8/25.4)</p>	<p>課題があると思われるもの、正答率が全国平均より低かったもの</p> <p>【量と測定】</p> <p>○正方形の縦の長さを2cm短くし、横の長さを2cm長くすると面積が4cm<sup>2</sup>小さくなることの説明を書く。</p> <p>問1の(2) (27.8/45.2)</p> <p>【数と計算】</p> <p>○目標のタイムを求める式の中の0.4や0.3が表す意味を書く。</p> <p>問2の(3) (11.1/15.6)</p> <p>【量と測定・数量関係】</p> <p>○学校ごとの1人あたりの本の貸出冊数を求めるために、学校ごとの貸出冊数のほかに調べる必要のある事柄を選ぶ。</p> <p>問4の(1) (38.9/48.3)</p> <p>【図形】・【量と測定】・【数と計算】・【数量関係】</p> <p>○示された形をつくることのできることを説明する式の意味を、数や演算の表す内容に着目して書く。</p> <p>問5の(1) (5.6/6.9)</p>

### 3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好き	66.6	66.0		0.6
算数の勉強は大切だと思うか	83.4	91.9	◇	8.5
算数の授業の内容はよく分かる	66.6	80.2	○	13.6
算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思うか	66.7	75.8	◇	9.1
算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える	72.2	81.0	◇	8.8
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える	72.3	67.4		4.9
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うか	94.4	89.9		4.5
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える	66.6	80.5	○	13.9
算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いているか	94.5	84.8	◇	9.7
今回の算数の問題で、言葉や式などを使って解答する問題には、最後まで書こうと努力した	72.2	72.2		0.2

#### 【学力状況調査より】

○国語の解答状況と似ている。特に算数のB問題での無答の割合は顕著であり、平均すると2割を超えている。さらに、記述式の問題だけでなく、選択式の問題でも同様に無答も目立つ。このことは記述されている事柄を読み取ることができず、そのために正しいものを選ぶことに自信が持てない児童が少なからずいると判断できる。奇しくも、国語に関する学習状況調査の項目の「読書が好き」の結果を裏付けるように、進んで文章を読むと言うことが苦手であるからと捉えられる結果となっている。文章を読み理解し、論理的に考えることに課題があるといえる。

○基本的な四則計算については、概ねできていると判断したいのであるが、少人数の集団のため、一人あたりの正答率が5.6%と大きく、正答率をもって判断することは難しい。全体の傾向から二極分化が算数でも見て取れるところは国語と同じ傾向であり、算数に関しても領域や観点を基にした傾向や課題と言うよりも、児童個々の課題を分析して捉えることが重要であると考えられる。

#### 【学習状況調査より】

○「算数の勉強は好き」と答える児童の割合は、全国の割合よりわずかに高いが、「内容がよく分かり」、「あきらめずに」、「もっと簡単に」、「いろいろな方法を考える」とする児童の回答率かなり低い。また、「新しい問題にであったとき、それを解いてみたい」と意欲的な回答をする児童も少ない。この根本には、「算数の勉強は大切である」と思っている児童が全国の回答率よりもかなり低いことと関わりが大いにあると言える。

○「分かりやすくノートにまとめる」という点については、かなりの児童が気をつけていることが分かる。また、今回は、算数については最後まで書こうと努力した児童については、全国の平均値とあまり変わらないが、今回の本校の国語の場合よりもがんばったとする児童が多いことが分かった。これは、設問内容が、国語では「文章で答える問題」となっていたのに対して、算数では「言葉や式などを使って」、という内容であったためであろうか。

平成28年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

本校の子どもたちの意識調査を、質問に対して4択で選ぶものは、選択肢1、2と3、4はそれぞれ同じ傾向と捉える。（例えば、1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない）

また、それ以外の質問は特徴的な事柄を取り出し、それらを全国と比較している。

下記の表には全国と比較して5%以上差のあるものや、特徴的な項目を列挙した。さらに、下線部に関しては10%以上の差のあるものを示している。

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	回 答 率 < 本 校 / 全 国 >
【家庭生活の様子】	<p>・基本的な生活習慣に関する項目(睡眠・食事)などは、全国平均よりもかなり低い結果となっている。</p> <p>・テレビ等の視聴時間が多く、睡眠時間に影響を与えているものと判断する。家庭での団らんはできているように思うが、地域のことに関しては関心が薄い。</p>	<p>○朝食を毎日食べていますか  <span style="float: right;"><u>&lt;83.3/95.5&gt;</u></span></p> <p>○毎日同じぐらいの時間に寝ている  <span style="float: right;"><u>&lt;55.6/80.1&gt;</u></span></p> <p>○1日あたり4時間以上テレビなどを見る  <span style="float: right;"><u>&lt;33.3/16.0&gt;</u></span></p> <p>○家の人と(兄弟姉妹を除く)学校のできごとについて話をする  <span style="float: right;"><u>&lt;72.2/79.2&gt;</u></span></p> <p>○今住んでいる地域の行事に参加している  <span style="float: right;"><u>&lt;55.6/67.92&gt;</u></span></p>
【家庭学習の様子】	<p>・宿題をしているとする児童は9割を超えるが、右の回答率からは、それ以上に家で学習に向かう気持ちが希薄なことが分かる。</p> <p>・平日30分以上読書をするという児童が皆無である。おそらくテレビ等の視聴にこの時間も割かれているのであろう。</p>	<p>○平日、1日1時間以上勉強する  <span style="float: right;"><u>&lt;39.0/62.5&gt;</u></span></p> <p>○平日、授業以外で1日30分以上読書をする  <span style="float: right;"><u>&lt;0/36.5&gt;</u></span></p> <p>○家の手伝いをするか  <span style="float: right;"><u>&lt;61.1/82.8&gt;</u></span></p> <p>○家で、自分で計画を立てて勉強するか  <span style="float: right;"><u>&lt;33.3/62.2&gt;</u></span></p> <p>○家での自学自習において、教科書を使いながら学習している  <span style="float: right;"><u>&lt;22.3/64.6&gt;</u></span></p>
【学校での学習の様子】	<p>「聞くこと」や「話すこと」についての回答から、これまでの校内研究の成果だと判断できるところがある。グループでの話し合いや、全体での交流などには積極的に発言する児童の姿を見ることができる。児童の登校する様子を見る限りでは学校が「楽しい」と回答する児童が全国よりも低いことが頷ける。</p>	<p>○友だちの前で、自分の考えや意見を発表することは得意である  <span style="float: right;"><u>&lt;61.1/51.7&gt;</u></span></p> <p>○友だちと話し合うとき、意見や話を最後まで聞くことができるか  <span style="float: right;"><u>&lt;100/92.7&gt;</u></span></p> <p>○学校に行くのは楽しい  <span style="float: right;"><u>&lt;77.7/86.3&gt;</u></span></p> <p>○今までに受けた授業では、学級の友だちとの間で話し合う活動をよく行っていた  <span style="float: right;"><u>&lt;100/83.4&gt;</u></span></p> <p>○これまで自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたか  <span style="float: right;"><u>&lt;72.2/64.2&gt;</u></span></p>

## 本校の取組み

### ◎これまでの取組み

- ・昨年度に引き続き校内研究は国語を中心の教科として、研究にとりくんでいる。今年度は「説明文」をもとに、「自分で考え解決する子どもの育成」をテーマに、「話す聞く活動を通して伝え合う力」を育むことに重点を置いている。
- ・授業改善や基礎学力の向上に向けて、昨年度より導入されたタブレット端末を活用した授業を展開している。
- ・「まなびんぐ(放課後学習会)」は今年度も、3年生を対象に算数の補充学習を毎週月曜日の6時間目にあてている。参加率は100%である。
- ・「漢字検定」は昨年どおり、6年生に実施(年2回の予定・1回目は実施済み)

### ◎これからの取組み

- ・上記の取組みについては、検証をふまえながら継続していく。
- ・タブレット端末の活用の枠を広げていく。(3年生：まなびんぐでの活用、4～6年生：動画配信システムを家庭及び学校で活用)
- ・全校児童対象に学習状況把握のためのアンケートを実施し、結果をもとに学力向上に向けた取組みを計画、実施していく。

《よく分かる授業をめざして 一本校の学力・学習状況結果から一》

- ・学習状況調査の結果から、「読書が好き」と答える児童の割合が全国の平均の半分にも及ばないことが分かった。それに関連する項目として、平日30分以上読書をする児童の割合も全国の平均よりもかなり低いことがわかった。このことが原因となって、読むことやそれを元に書くことに関連する項目についての肯定的な割合も全国のそれに及ばないことが判明した。また、基本的な生活習慣に関しても本校の児童については望ましい結果が得られていない。まず、読書時間の確保と生活習慣の見直しのための手立てを講じることが急務である。

### 【国語の指導に関して】

#### ◎学習の基礎となる「読むこと」の充実のための読書時間の確保を図る。

(読むこと)

- ・文章を丁寧に正しく読むこと、相互関係を明確にしながらか読むことの指導に重点を置く。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

- ・学年別漢字配当表に示された漢字を正しく書くことについては、繰り返し学習にとりくむ。

(書くこと)

- ・読み取ったことをもとに、正しく文章に表すことやある程度まとまった文章を書く機会を増やす。

(聞くこと・話すこと)

- ・ICT機器の活用を積極的に進め、「聞く・話す」力の伸張を図る。

### 【算数の指導に関して】

#### ◎学習課題を正確に読み取るための読解力を高める手立てを工夫する。

(量と測定)

- ・示された説明を正確に読み取ること、その中で自分の考えを持ち、記述する場面を設定する。

(図形)

- ・図形の性質を理解し、示された形を作ることができることを記述できるようにする。

(数量関係)

- ・示された情報を読み取り、何を求める場面かを捉え、答えを導き出すための手立てを工夫する。
- ・見通しを立てることのよさを実感させ、考えたことを記述できるようにする。